

若者とコミュニケーション できる「若のチカラ」

そんなありのママが持つチカラは、大きく分けて2種類ある。「若のチカラ」と、「熟のチカラ」だ。「若のチカラ」というのは簡単に言えば、「若者と同じ土俵でコミュニケーションできるチカラ」。ひと世代前の母親とは一線を画す特長だ。

最近のママたちは、心身ともに若々しい。バブル周辺世代であることも手伝ってか、出産・育児を経ても美容に気遣うなど、若々しさを保っている。実際、35歳～45歳の主婦300人に、自身の感性に関する意識調査を実施したところ「もっとキレイになりたい」と答えた人は45.6%、「実際より若く見られたい」と答えた人は47.0%と約半数にのぼっている。そういえば、美魔女というジャンルの出現も彼女たちの志向を裏付けている現象のひとつかもしれない。

「休日は娘と ショッピング♥」

さらに、彼女たちが子育てをしていた90年代後半から顕著になったと言われる“友達親子”。ありのママたちにおいては、そんな関係ももはや当たり前で「娘とふたりで買い物に行くのが趣味」「中2の娘と流行のアーティストのコンサートに行く」なんて日常茶飯事。子供と同じ土俵でコミュニケーションするのが自然のようだ。

また、子供とフランクにコミュニケーションすることで、若者の間で流行していることを、自然にインプットできていることも、ありのママの若々しさの秘訣のようだ。これは、ある程度子供が物心がつき、対等にコミュニケーションができれば始める時期からの特権。「同じドラマを見て、どっちの俳優が好きか言いあったり（42歳/ありのママ）」と、娘との女友達同士の関係を

楽しむママもいる。

バイト先の若者も 仲間ととらえる

彼女たちの若のチカラは、パート・アルバイト現場においても影響をもたらしている。ありのママたちは、「若者バイト」と「パートさん」という隔たりをつくることなく、若者たちと“同じ職場で働く仲間”として接するケースが多くなってきているようだ。年齢が違うからと職場で孤立することなく、他の若者に上手になじむ。ときに友人のように盛り上がり、ときに職場のみんなの母親役として、マネジメント力を発揮してくれる。ありのママの「若のチカラ」のおかげで職場は人間関係が円滑になったり、雰囲気よくなったり、ひいてはサービス力のアップにつながっている事例まで出は始めている（具体例はP12～）。

じゃく
「若」
の
チカラ

コミュニケーションカ

じゆく
「熟」
の
チカラ

テキパキカ
おもてなしカ
マネジメントカ

